



第1回「若手研究者育成会」の記録

大学史事務室 佃 隆一郎

2009年を迎え、東亜同文書院大学記念センターでは所属している若手の研究者を育成する目的で、「若手研究者育成会」を立ち上げることになり、代表には発起人の越知専客員研究員が就任した（大学史事務室の小林倫幸氏が各人への連絡を担当）。

越知研究員の提案により、まずは毎月1回ずつ昼に会食をしながら、担当者が報告や発表をする形で「育成会」としての意見交換を行なうことになり、さっそく1月20日に第1回の報告・発表会が、大学記念館2階の会議室（越知研究室隣り）で開かれた。参加者は越知・大島隆雄の両客員研究員や「若手研究者」たるポストドクターおよびリサーチ・アシスタント、記念センター・大学史事務室の豊田信介氏と佃のほか、研究支援課の古河邦夫課長と山本晃司主幹、そして司会役としての小林氏の計11名であった（山本氏は所用のため途中から参加）。なお、毎回の報告・発表者は2名、約10分ずつ行なうことになった。

まず佃が、翌々日に参加予定の全国大学史資料協議会研究会での質問のための準備として、本

愛知大学豊橋校舎に残る旧陸軍建造物やかつての「軍都」豊橋について、以前に自身が『愛知大学小史』で執筆した箇所のコピーをもとに説明を行なった。とくに豊橋が戦後「軍都」として栄えていた面については、山本主幹ほかから感想が述べられた。（実際に佃が越知研究員ともども参加した、大学史資料協議会研究会についての報告は別項参照）

続いては山本主幹から、記念センターをオープン・リサーチ・センターとして文部科学省に申請した時の書類に記された「研究成果の公開の過程に対応し、研究者養成を促すシステムを確立することが総括となる」との箇所が示され、若手研究者にその成果を発表させる機会を与えることがこのセンターの当初からの根本目的であることが確認された。

最後に、次回の会合は2月17日の同時刻に同じ場所で開くことと、豊田氏と暁徹リサーチ・アシスタントが報告を行なうことが確認されて、午後1時過ぎに閉会した。

